



高校カナダ短期留学体験報告その3

NO.71

本校では高1～高2の生徒を対象に1月から3月までのカナダトロント近郊での短期留学を実施しています。今回は最後のレポートとなります。今後留学することを考えている生徒諸君はぜひ参考にしてみてください。

カナダ留学を終えて

高校2年2組 久々宮 慶人

僕は前年度の3学期間である1月6日から3月16日まで海城の短期留学プログラムでカナダのオンタリオで過ごしました。同学年5人で行き、2人はOrillia Secondary School(OSS)に、僕と藤本君と鍋谷君はTwin Lakes Secondary Schoolという現地の学校に通いました。僕のこの留学の目的として英語のスピーキング能力の向上や外国の人とのコミュニケーションの取り方を学ぼうというものもあったのだけれども正直なところ、自分の中で明確な目的意識をもってはいなかったです。

そんな中で行った今回の留学に行ってもよかったなと思っています。と言っても、ただただ漫然に過ごしていたというわけではなく文化の違いや、それこそ他の四人に比べて特に英語ができない僕はたまに相手に伝えたい事をうまく伝えられなかったりとして苦勞することもありました。でも、ホストマザーや友達などは頑張って僕の英語を聞こうとしてくれてとても嬉しかったです。僕に関わってくれた友達やホストマザーはとても優しく、ホストマザーは僕が水を飲んでもいいですかなどと聞いた時にこの家はあなたの実家だと思ってくれたらいいと言ってくれたりしてとても安心したことを覚えています。学校では教室に入ってすぐに隣の生徒が今日から君は同じクラスメイトだなどと言ってくれてとても親切でした。

自分で授業を四つ選んで取ることができるのですがその中で僕が取った音楽の授業で日本のゲームなどをやっていて、日本に興味のある女の子と仲良くなったのですがその女の子が日本についてのことをよく質問してくれて僕はとても嬉しく感じ、自分の国について知ってくれるのがこんなに嬉しいことなのだと知りました。なので、僕はカナダに行く前はあまりカナダについて知ろうとしていなかったことに対して後悔したと同時に他の国に対する興味がわき、いい経験ができたと思います。

最後に応援して下さいました先生方や家族などに感謝致します。本当にありがとうございました。



HLAB サマープログラム校内説明会の案内

HLAB は、将来の不確実性と多様な選択肢が混在する現代において従来の「学校」の形を超えた新たな教育を提唱します。HLAB の「H」は、「学寮生活を中心としたリベラル・アーツ教育」という HLAB のコンセプトから、人的交流の「Hub (ハブ)」となる「House (寮)」を意味しています。また「LAB」は、「Liberal Arts beyond Borders」(ボーダーを越えるリベラル・アーツ)の頭文字です。世代や国籍、分野を越えて互いから学ぶリベラル・アーツ教育を提供するという HLAB のミッションを表すとともに、新たな教育の形を日本で実現するための実験の場(ラボ)になって貰えればという思いが込められています。(ホームページより転載)

2019年3月卒業の島村君よりメッセージが届いていますので以下掲載します。

Tell Me Your Story - HLABサマースクールへのご招待

海城の皆さん、こんにちは！OBで東京大学理科一類一年の島村と申します。

僕が高2の時に参加して、多くの刺激ときっかけ、そして一緒に行動を起こせる仲間を得たサマースクール、HLABを紹介いたします。東京、長野、徳島、宮城の4地域で開催されていますが、例えば東京地域では高校生80人、日本の大学生34人、海外の大学生18人が集まり、9日間同じ屋根の下で暮らします。この期間の間、海外の大学生によるセミナー(アクティブ・ラーニングを取り入れた大学の学問への入口)やフリーインタラクション(社会人の方々をお招きし、膝を突き合わせて話してみる)、リフレクション(10人ほどのグループで、自分のことを見つめ直す時間)などを通じて、現在の自分と未来の自分のありたい姿を見つめ直そう、というサマースクールとなっています。

僕がHLABで得た一番の財産はホンモノの同世代の仲間です。エネルギーで、行動的な同年代の仲間と出会えるのは自分自身を変える契機となりますし、自分の置かれた環境、自分が「当たり前」だと思っていることを相対化することに繋がります。

さて、HLAB座談会@海城についてご案内します。開催日時など詳細は下記の通りです。みなさんと話せるのを楽しみにしています！



日時: 2019年5月25日(土) 13:30~15:30

場所: 合同23W教室(2号館3階)

内容: HLABと応募プロセスの概要説明、過去参加者の声、大学生との座談会など

事前の出欠確認は特に取りません。興味のある生徒諸君は当日直接教室までお越し下さい。プログラムの直接の対象とはならない中学生でも結構です。尚、当日は別の行事との重なりからグローバル教育部の教員は同席できませんが、どうかご了承下さい。

高校生英語弁論大会のお知らせ 第9回上智大学ジョン・ニッセル杯（高1～3）

英語弁論大会の案内が届きました。我こそはと思う生徒諸君はぜひ挑戦してみてください。

1次審査応募期間：2019年8月23日（金）

1次審査結果発表：2019年10月上旬

本選開催日：2019年11月16日（土）13時より 上智大学四谷キャンパスにて

対象：日本国内の高等学校、インターナショナルスクール及び文部科学省の在外教育施設の認定を受けた海外の日本人学校に通う高校生で、本選に出場できる者。海外体験の有無は問わない。

長さ：4分以上5分以内

テーマ：“What YOU Can Do Today for Tomorrow”

できるだけ実体験に基づいた独自の内容が望ましい。

内容がテーマに沿っているかは応募者各自が判断すること。

審査基準：英語の文法、発音、プレゼンテーション技術の他、主題の選択、文章構成、スピーチとしての説得力、内容の独自性など内容面も重視して審査する。

1次審査：原稿と録音による。

本選：スピーチの後に審査員が簡単な質疑応答を行う。

本選出場予定者：20名

ジョン・ニッセル杯の紹介映像や過去の大会の様子は以下のサイトを参照

<http://www.sophia-cler.jp/hs-students/nissel-cup.html>

更に詳細を知りたい場合はグローバル教育部（2号館2階）までどうぞ。

公式ホームページより以下転載。



本選出場者と審査員で記念撮影

夏のイベント紹介 海外で学ぶ

本校では生徒諸君に英語圏だけでなくアジア諸国への関心も深めてもらいたいと願っています。韓国に関心のある生徒は次のプログラムを検討してみてもはいかがでしょうか？当該プログラムは日本と韓国で隔年で実施されており、今夏は韓国で開催されます。

第26回日韓高校生交流キャンプ

概要：日韓両国の高校生が10人前後の混成チームに分かれ、韓国経済・文化の現場体験を行います。その体験学習を基に、日韓両国の新たな未来へつながる、かつ継続可能な交流を見据えた新ビジネス案を企画・発表します。

日程：2019年8月5日（月）～9日（金）4泊5日

開催場所：韓国ソウル「ハイソウル・ユースホテル」

募集人数：日本・韓国の高等学校在学学生各30名（計60名）

交流の関心が強い人（相手国の言語で会話できる必要はありません）

日本側の対象：高校生で日本国籍を有する者。外国籍の場合は日本の永住権を有し、かつ日本に居住する者。JENESYSプログラム（日本国際協力センター主催）に参加したことがない人。

募集期間：5月20日（月）必着

参加決定連絡：6月4日（火）

主催者側で学校別、男女別、学年別バランス、参加経験及びテーマ作文などを勘案し参加者を選抜。

参加費用：30,000円（宿泊、移動、食事、交流プログラムは主催者負担、但し、羽田空港と自宅までの交通費は参加生徒負担）

主催：日韓経済協会

事前説明会：6月29日（土）午後東京にて

申し込みは各自でしていただきます。専用の申込書及び作文用紙があります。希望者はグローバル教育部（2号館2階）に来て下さい。応募締め切りが迫っているので早めをお願いします。



昨年は広島で開催